

2016年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

教室だより 7月号

七夕

七夕は、牽牛星と織女星が7月7日だけ会うことが許されるという中国の伝説から生まれた行事ですが、日本ではこの伝説に、お盆を前にした禊ぎの風習や、日本古来の伝説などが結びついて、現在のような形になったと言われています。七夕といえば、東北三大祭りの最後を飾る仙台の七夕まつりが有名ですが、はじまりは、昭和2年(1927年)のことで、翌年に開催された東北産業博覧会をきっかけに、商工会議所と協賛会が「飾りつけコンクール」を行い、それが年々盛んになっていったそうです。昭和26年(1951年)7月には神奈川県平塚市で、その仙台をモデルとする七夕まつりが開催され、その後、経済成長とともに東北から東日本の各地で、このような夏の一大イベントとしての七夕まつりが広まっていったのだそうです。

日本各地の民俗行事として伝えられていた七夕行事に共通する特長は、水に関する伝承が多いという点で、女性はこの日は必ず洗髪する、子どもたちは7回水浴びをする、家族全員で行水をするなど、じめじめした長い梅雨の間に溜まった不浄なものを禊ぎ、祓い清めるという意味の伝承が数多く見られます。

七夕の時期にはまだ梅雨明けしていないことが多いため、天の川が綺麗に見えることは少ないですが、今年の七夕はどうでしょうか。

公文式の創始者・公文 公(くもん とおる) 先生の言葉より

“夢と目標をもった子に”

「家庭教育」の目指すもの

「どうして勉強しなくてはいけないの?」という問いかけに対して、自分が将来なりたいものになるための土台作りとして必要であることを親子でしっかり話しあっておきたいものです。勉強は、親や他人のためにするものではない、さらには、一般的に「いい」といわれる学校に進学するためだけのものでもない。自分自身の夢に近づいていく、自己実現をしていくためにこそ努力するのだ、ということが納得できている子どもの瞳はいつも輝いています。多少の困難にもくじけたりはしないでしょう。

その土台となる「読み・書き・計算」という知的技術は、習得できるまでの個人差が大きく、限られた時間の学年別一斉授業ですべての子どもに等しく習熟させようとするには無理があります。公文式は家庭教育をお手伝いする立場から成果が得られるように皆さまとごいっしょに、一人ひとりのお子さまの成長を見つめてまいりたいと考えております。

2016年7月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18 <small>祝</small>	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

本市場教室日□

横割教室日△

◇ 夏の特別学習のお知らせ ◇

新しい学年も3か月が経ちました。お子さまのご様子はいかがでしょう?

今年も公文式「夏の特別学習」を実施します。この夏を有意義に過ごし、自分から進んで学ぶ楽しさを味わうためにぜひ、夏の特別学習を利用して、新しい教科にチャレンジしてください。まだ入会いただいていないご兄弟・姉妹の方がいらっしゃいましたら、ぜひご参加をお待ちしております。また、お知り合いの方へ公文式学習をご紹介いただければ幸いに存じます。一緒に学習する仲間は子どもたちにとって大きな励みとなります。

期間：7月21日(木)～8月31日(木)

費用(1教科)：幼児・小学生 6,480円
中学生 7,560円
高校生以上 8,640円

※費用は教材費、消費税を含みます。

～未知の課題への挑戦と『脳を活かす勉強法』～

『脳を活かす勉強法』（茂木健一郎著）という本を再読しています。

その内容は脳科学者として多方面で活躍されている著者の茂木健一郎氏自身の学習体験と最新の脳科学の見地から、いかに「脳」を活かすか、をテーマに編み出した「勉強法」を紹介したものです。紹介されている「勉強法」の鍵は、「脳を喜ばす」ことであると茂木氏は説明しています。

人間はある行動をとったあと、その行動を成し遂げたことによる達成感や、他者から誉められた満足感などの喜びを感じたときに、脳の中では「ドーパミン」と呼ばれる物質が分泌されます。

ドーパミンは神経伝達物質のひとつで、「快感」を生み出す脳内物質として知られており、その分泌量が多ければ多いほど、人間は大きな快感・喜びを感じることが分かってきています。そして、人間の脳はドーパミンが分泌されて喜びを実感できた行動を克明に記憶し、ことあるごとにその行動＝快感を再現しようとします。この快感を生み出す行動を2回、3回と繰り返し続けることで脳内に強固なシナプスが形成され、やがてひとつの行動に練達していきます。

この学習のメカニズムを「強化学習」といい、『脳を活かす勉強法』の極意は、このドーパミンによる「強化学習」という「喜びの回路」のサイクルを回すことにあると説明されています。この「強化学習」のサイクルを回すには、「脳を喜ばす」ことが必要です。

脳はどんな時に喜び、ドーパミンを分泌するのでしょうか？人間の脳は、新しく学ぶことに喜びを感じるように設計されているとともに、脳の働きの本質は「自発性」にあります。脳が喜びを感じるためには「強制されたものでない」ことが大事であり、子どもの主体性を引き出すためには、どんな小さなことでも自発的にやったことで「喜びの成功体験」を持たせることが大切になります。また、ドーパミンはできるとわかっていることを成し遂げても放出されず、できるかどうかわからないことに、一生懸命になってぶつかり、そして苦勞の末にそれを達成した時に大量に分泌されます。

「えっ、私ってこんなことができたの？」と意外性が強ければ強いほど、喜びが大きくなる特性があるそうです。人間は自発的に自分に負荷をかけて、「これは無理かもしれない・・・」と思うような未知の難しい課題に挑戦し苦しんだあと、それが成功したときに一番喜びを感じるメカニズムを持っており、その快感のもととなった行動を再現しようとするそうです。

公文式学習での学年を越えて学校で習っていない未知の課題への挑戦は、人間の脳を喜ばす特性を備えています。学校で習っていない新しい未知の課題に、子どもたちが自発的に試行錯誤する学習プロセスの中にこそ、子どもたちが能力を伸ばす契機があるのです。

慣れよう「できる」から「わかる」

難しかったところも慣れてくると簡単に出来るようになったという経験は誰にでもあるでしょう。

例えば自転車に乗れるようになるまでのことを考えてみましょう。

自転車に乗れない子どもに何十回乗り方の説明をしても、わずかな子どもを除いては乗れるようにはならないでしょう。幾度となく転倒して（時には怪我をしながら）少しずつバランスをとるコツを覚え、そしてペダルを踏める回数が増えて、誰かの手助けも必要なくなり、自力で乗れるようになったときの喜びは本当に嬉しいものです。

乗れるようになると最初はわからなかった説明も理解しやすくなり、だんだんうまくなっていきます。

勉強のやり方（数学や音楽、美術などの技能教科などは特に）も同じことが言えます。

「わかる」→「できる」のではなく「できる」→「わかる」のほうが知識、技能を自分のものにしやすいのです。

数学の学習においても、同じことを何回も何回も繰り返して数にも式にも慣れてくると、知らず知らずのうちに、数学が得意科目だと思えるようになります。

このように思える、良い意味での“錯覚”が大切であって、「もしかしたら自分は頭がいいのでは」と“錯覚”することが頑張るエネルギーになり、また何かの機会に先生に誉められ、友だちに「あいつはすごい」と言われることがあれば、難しい問題にぶつかってもなんとか解こうとするようになっていきます。

繰り返し繰り返し問題を解き、勝手に手が動くまでになり、公文式での学習進度が1学年先、2・3学年以上先に進んでいけば、頭の使い方を覚え「頭のいい子」になる可能性が高まるのです。

まず「できる」ことを大切にしましょう。

お休みのときは、電話でも携帯メールでも結構ですので連絡をお願いします7月分の会費引き落としは6月28日(火)です。よろしくお願ひいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。